会報
46号

れきふー

函館の歴史的風土を守る会会報
No.46　H 6. 3. 8
発行所　函館の歴史的風土を守る会
事務局　函館市五稜郭町４３－９
五稜郭タワー株式会社内
電話（0138）51－4785
印刷所　双葉印刷 電話 53－7730番

第16回 函館の町並みを美しくする

新春チャリティ・パーティー盛大裡に開催!

歴史的町並み基金をつくる音楽と語らいの夕べ！が '94年２月18日五島軒本店に於いて渡辺靖夫実行委員長、斉藤サダ副実行委員長のもと、約３００名の参加者を迎え、盛況裡に開催され、席上、原風景宣言、第11回歴風文化賞と歴史的町並み基金として函館市へ金２５万円の贈呈式が行われた。

（写真左から、浜島会長・大山さん・入村さん・坂下さん・地原さん・外山さん）

原風景　＝宣言文＝

「函館ドック」のクレーン風景

函館のウォーターフロントから眺められる巨大な二基のツートンカラーのクレーンのある風景は市民にすっかり馴染まれている。それは、明治29年創業された「函館ドック」が一世紀にわたって、市の基幹産業の重責を担ってきたシンボルでもあった。函館の造船業の歴史は、安政二年の開港で逸早く外国文化がもたらされた頃に溯られ、多くの造船所が函館港周辺に立並び、その伝統と環境の中で市民生活は営まれてきた。
激しい時代の移り変わりの中で今造船不況は一段とその厳しさを増し、市民はこのクレーンの行末を感慨深く見守っている。この優れた美しい景観と歴史性こそ、函館の原風景に価するもとして、ここに宣言します。

団体

函館大妻高等学校　様

学校法人函館大妻学園「函館大妻高等学校」(外山正校長）では昭和52年から「観光地美化実践活動」を継続して来たことが、歴史的風土形成に寄与した団体として、高く評価されました。

歴風文化賞　特別賞

函館市大森町17-4　巴座 様

明治29年芝井小屋としてスタート。昭和11年芝井やオペラの舞台劇場同28年バレエ・歌舞伎場、同30年本格的、大型映画の封切館、正に娯楽の殿堂として庶民の生活に潤いを与えた、今日までの御苦労に感謝を込めて----------。

歴風文化賞 保存建築物

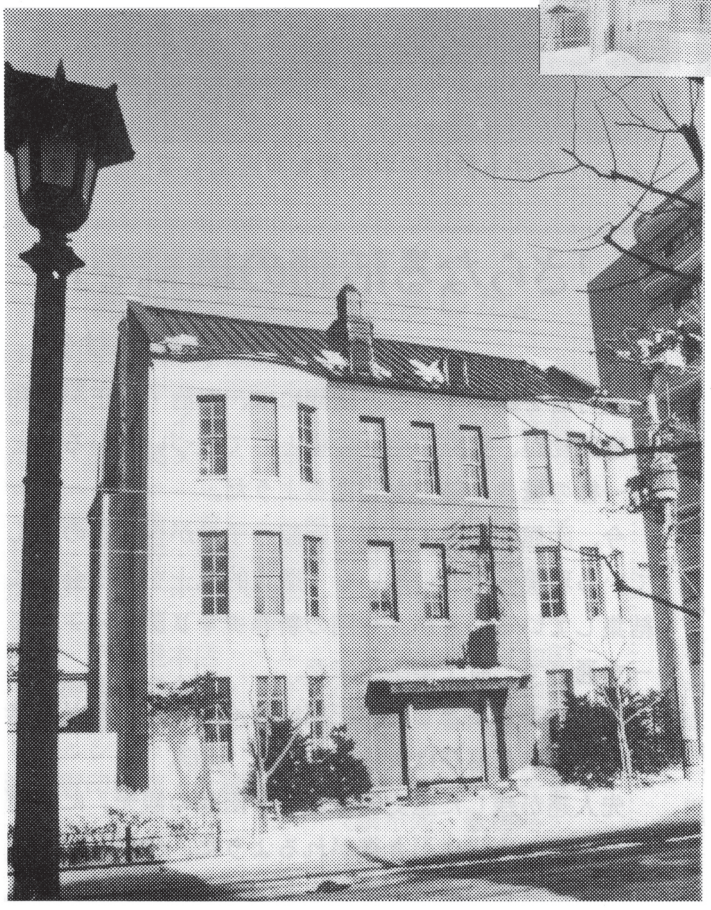
函館市宝来町9-4　入村悟朗 様
「茶房 ひし伊」（ 旧入村質店）

外観からは同種構造に見えるが、明治38年に建築、大正10年に増築された。鉄筋コンクリート、土蔵、石造を使用した珍らしいもので、３回の大火と２回の大地震に耐えた。昭和57年、土蔵を内部改装し「喫茶ひし伊」として現在に至っている。

歴風文化賞 再生保存建築物

函館市弁天町22-14 坂下清一 様
ミートハウス　（旧西浜旅館）

明治40年、上下和洋折衷様式で建てられた。隣家に接する西側外壁は袖壁に連続して、全面木骨レンガ造としている点がユニーク。この度、創建当時を十分考慮して修復された。



歴風文化賞 再生保存建築物

函館市末広町15-3 大山一憙 様

函館海産商同業協同組合

大正９年建築の木造三階建。建築デザインに意気込みが感ずる建造物。南西沖地震で壁に大きな破損を受けたが往時の雰囲気を十分残している。

◇◇◇

歴風文化賞選考基準

① 建物自体の貴重性。
② 持ち主が長年保存への努力を続けている。
③ 景観への寄与。
④ 歴史性。
⑤ 地域の町並みや社会全般へ波及効果が大きい。
⑥ 諸々の制約の中で創意工夫が顕著である。

◇◇◇

共生の市民精神

実行委員長　渡辺　靖夫

本日第16回チャリティパーティーにようこそおいで下さいました。函館の町並みを美しくしようとする市民の皆様、本当に有難うございます。私は伝統的建造群保存の会の渡辺でございます。このたび実行委員長をおおせつかりました。一言お礼の言葉を申し述べます。

函館はかつて市民精神の横港しておりました町でありました。欧米文化の流入した町、その影響を強く受けた町でありました。明治10年前後、函館を訪れた外国人旅行者は、この町のたたずまい、気風を見て、この町は極東の町ではなく、ヨーロッパか新大陸の港町を思わせるものがあると書き残しております。旧幕藩体制の桎梏もなく、とらわれるべき因習もなく、自由でのびやかな市民精神を発揮して現在謂うところのインフラ、社会資本の形成が市民の手で進められたのであります。歴史的遺産として今、私たちが目にするのは、その時代の潮流が残してくれたものであります。文化的・経済的・精神的な時代の反映であります。

経済成長至上主義でばく進してきた戦後日本が、ふと我にかえって、これで良いのだろうかと歴史の来し方を見渡したくなった時、先人の残してくれた心豊かな遺産に気付いたのです。何か大切な生き方を失ったのではないか、と反省したのであります。

歴史的風土を守る会が誕生した時代の背景には、そのような空気があったと私は推察します。爾来、今日までの歩みは、正に共に生きる市民精神を発揮された活動の歩みでありました。

20世紀末の昨今、激しい変化と厳しい障害・摩擦に世界は揺れております。このような困難な時代であればこそ、人間が人間らしく心豊かにくらせる町作りにたとえささやかであろうとも、市民の力を結果することに大きな意義かあります。都市において共に生きるという共通認識をもって市民の存在は大きいのです。

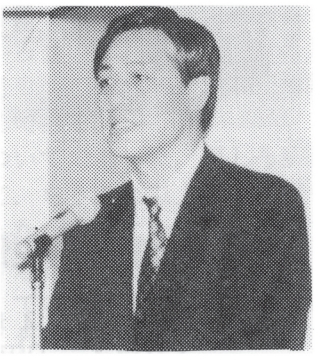
目に見える歴史的遺産の背後にあります、その時代の精神的風土に想いを到し、次の世代・後世の市民のために、思いをつくし、力をつくすことを念ずるものであります。

本日は、皆様のあたたかなお力添えを有難うございました。準備にあたりました歴風のスタッフ共々お礼を申し上げるものです。

（函館市伝統的建造物群保存会会長）

三役ご挨拶
浜島会長・渡辺委員長・斉藤副委員長

万感胸にせまる会長……



金山教育長の謝辞

今年も沢山のお客様をお迎えして……

「さらなる活動の継続を」

副実行委員長　斉藤　サダ

旅行者を案内すると、函館には、明治・大正・昭和の建築物が、実際の生活の場として息づいていることに一様の驚きと魅力を覚えるようだ。

今、函館に生きている「函館っ子」が自分達の住んでいる環境保全への思いを「歴史的風土を守る会」に結集していることが、今回の新春チャリティパーティーを通じて、肌で実感出来た。

副実行委員長として重圧感は無くもなかったが、無事終了出来た喜びは大きかった。

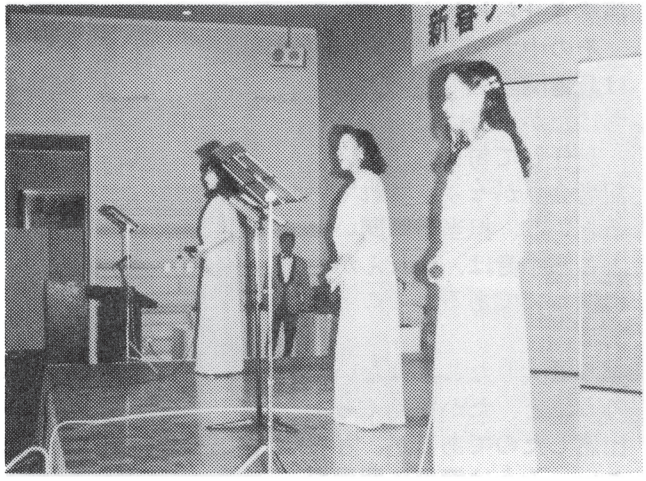
先人達が残した歴史的遺産を「函館の観光」に活用され、更に次代に引き継がれるように、「歴風会」のさらなる活動の継続を祈念申し上げます。

原風景宣言する
斉藤副実行委員長

歴風も大切、野外劇もだいじ…
―熱っぽく、グロード神父さん―

「鶴亀」を舞う対馬会員……

受賞者を代表して大山氏の謝辞



アンコールの嵐！にこたえるキャッツアイの皆さん

協賛商社のみなさま ありがとうございました。

◎チャリティパーティに御協力商社

棒二森屋・㈱今井・函館西武・魚長食品・函館山ロープウェイ・イトーヨーカドー・長崎屋・函館魚市場・五稜郭タワー・第一食品・さいか・サッポロウエシマコーヒー・文雅堂・カメラのたねざわ・太田比古象・おしゃれ館・ユニークショップつしま・五島軒・かもめの水兵さん・平方亮三・割烹中井・テーオー小笠原・アララット・ＢＡＹはこだて・函館ビヤホール・花ホテル・はこだてわいん・不二屋本店・マルミヤ宮下商店・三和印刷・小田島水産食品・カネマル・ナシオ・昭和製菓・末広堂・カメラのニセコ・生田ガラス館、函館・マルショウ食品・コカコーラ・ペプシコーラ北海道雪印販売・大槻食材・カネツ渡辺・北辰電機

（順不同・敬称略）

歴史的町並み基金へのご寄付 ありがとうございました。

函館市都市景観課長　宇都宮幸雄

この度はチャリティ・パーティーの席上で、西部地区歴史的町並み基金に対し多大なご寄付をいただき、誠にありがとうございます。これまでにも、たびたび貴重なご寄付をいただいており、歴風会の皆様方のご厚意に紙面をお借りして、改めてお礼を申し上げます。

函館市では歴風会の皆様方からのご寄付を契機に平成５年３月に「西部地区歴史的町並み基金」を設立し、歴史的な町並みを市民共有の財産として、所有者の方々の経済的負担を軽減しながら、市民の皆様とともに、より一層良好な状態で将来に伝えていくことを目的として取り組みを進めております。

今後は、この「歴史的町並み基金」の円滑な運用を図るために、市民・行政が一体となった活動を展開してまいりたいと考えておりますので、よろしくご協力の程、お願い申し上げます。

赤レンガ郷土館に想う

佐　藤　　夙
（元 秋田市文化会館長）

私が、秋田市教育委員会社会教育課長を拝命したのは、昭和58年４月のことである。

一線現場の公民館で、長い勤務の終えてのことなので、何から何までもが新鮮なおどろきの連続だったのを思い出す。

文化財のことや、秋田城跡の発掘、御所野臨空港都市づくりのための発掘、そして赤れんがの建物利用計画など、正に目のまわるような事業の展開である。そのどれ一つとってみても、一日も尚ざりにできないものばかりであり、体がいくつあっても足りないことを痛感させられたものである。

その中でも、赤れんが館は最難関として私の前に立ちはだかっていたのである。

赴任して旬日も経ない頃、記者会見がセットされているという、担当者に聞いたところ中身は、赤れんが館に関してであるとのことである。

どうせ大したことはないだろう、と、たかをくくって出席したのであるが、どっこい、そうは簡単に問屋をおろしてはくれなかった。

赤れんが館の開館見通しについて、有無を言わせぬ厳しい質問攻めである。聞いている方は、誠にもっともな質問をしているのであるが、答える方にとっては、誠に辛い、出来かねる答えをしなければならない。何せ、御承知のとおり、役所は予算が伴わない事業はできかねるし、予算がつくかつかないかという、あやふやな時点では答えたくとも答えようがないわけである。日頃はいささか弁舌に自信がないわけではない私でも、これには全く閉口し、汗みどろの記者会見をどうにか終えたわけである。

ところが、そのあとが大変であった。報道各社は、何故開館の見通しが、現時点ではっきり出来ないのか、という詰問的な記事になって現れてしまった、四面皆楚歌であり、役所側の反応も今一つであり、正に泣つき顔に蜂の例えそのものであった。

このことが一段落して、ようやく少しは落ち着きをとり戻して、予算編成が近づいた頃に、地元で一番大きい新聞社から電話が入った。出てみると、編集局長をしている私の友人、渡部さんからであった。

会いに来られるということでお会いしたら、自分はいまだかつて記事を書くことで予告するとか、あるいは事前に当事者に話してから書いたことはないが、友人として今までの永い記者生活ではじめて、事前協議に来られたとしいうお話しである。

中味は、赤れんが館についてであった。何しろ新聞社に沢山の投書が来ていて、もうこれ以上は見過ごせない状況になった、従って近日中に赤れんが館に関しての、大きい記事にしなければどうにもならない、一応事前に話しておくよ、ということである。

もちろん私にしてみれば書いてほしくはない記事ではあったが、いかんせんいた仕方ないと考え、わざわざのご来訪を謝して、久々に忙しい者同志、この件には関係なく旧交を暖めたものである。

毎日、特別に注意をはらいながら新聞に目を通していたが、間もなく、何と、こともあろうに社説に堂々と、赤れんが館の開館を急げ、と掲載されたのにはおどろいた。何しろ社説である。私も厳しい受けとめ方をしたが、市長は私以上のものがあったと思われる。何しろ、市長はその新聞社の編集局長から市長になられた人物である。いかに厳しい受けとめ方をなされたか、想像に余りあるものがある。

しかし、私はどこからもお叱りを受ける事はなかった。

そして予算編成作業から予算査定へと進んでいったわけであるが、私は、終始一貫、その社説を携行して査定にのぞんだものである。これが予想外にきいて、思いつきのような私の考えが、抜群の効果を生んだ。

そして、いよいよ市長査定の前夜、市長さんとの特別なお話しあいの機会を得た私は、全く幸運な男であ

った。(今は、市長さんも退任され、私も退任したので、この秘話を書くことができた)

結果は、赤れんが館の開館にむけて、管理棟の新築、外構工事等の付帯予算のすべてが認められ、しかも管理棟にいたっては、当初二階のものが三階にと飛躍的なものになったのである。

昨秋、函館にお招きをいただき、市民が支えた赤れんが郷土館、というテーマでお話しをして参り、今秋は、函館歴風会の皆様がわざわざご来秋くださいまして、その絆がますます深くなりましたことを喜んでおります。

赤れんが館を支えた市民の皆さんはもちろんでありますが、この難物と取り組んだ私にしましても、本当によい想い出になったと考え、その仕事を担当いたしましたことに感謝の念を抱かずにはおられません。しかし、寿命が三年位縮まったのも、また事実といわざるを得ないと思っております。

もっともっと年をとり、すべての公職から解きはなたれて、自由人になった時、私は、お天気のよい日には、できるだけ赤れんが館に赴いて、その庭でゆっくりとくつろぎたいものと思っております。そしてそこで、来し方を思い、行く末にまた思いをはせる場所にいたしたいものと考えます。

しかし、私が何者で、何のためにそこにたたずんでいるのか、と知る人はもちろんおらないでしょうし、私を知る赤れんが館の職員もいないことでありましょう。

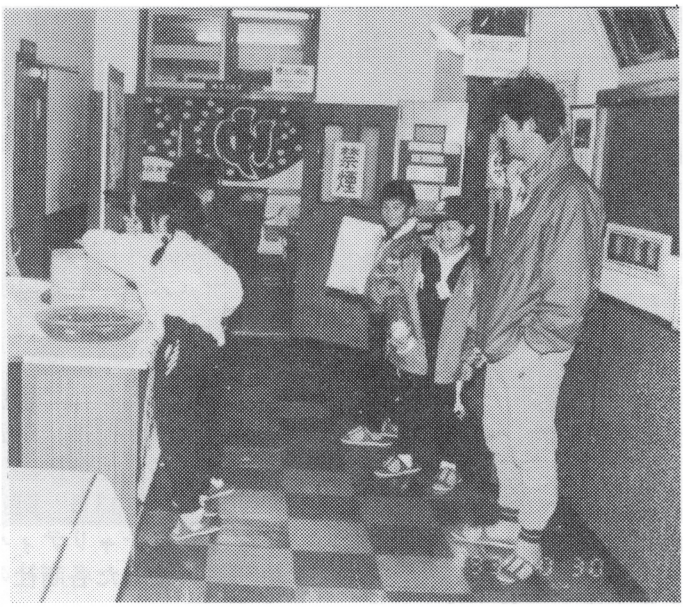
大野町文化財保護研究会の歩み

木　下　寿実夫
(大野町文化財保護研究会　会長)

当研究会は大野町史発刊から間もない今から21年前に設立され、昨年20周年の記念事業を実施したところである。

以下活動の歩みと課題などを少し述べてみたい。

設立の頃から農作業の機械化、生活様式の近代化が進行していて使われなくなった農具、民具などは廃棄されたり町外業者が買い入れて流出する状況であった。町民有志はこのような様子を憂い何とか残して後世に伝えたい、そんな願いから町民の協力を得て集められた農具、民具を毎年の文化祭に郷土資料展を実施しその意義を訴えた。現在は教育委員会が受け継ぎ、郷土資料室に豊富な資料が整理され展示されている。



この間、関係者が集い当研究会が設立された。以後文化財に関する講演会を催し町民の関心の高まりを期待しながら、文化財保護条例の制定を行政に粘り強く働きかけ実現にこぎつけた。そして、有形に江差山道石版画他三点、無形では大野ぎおんばやしが待望の町文化財に指定された。今その有形の複製、無形のビデオも作って保存することが必要となっている。

箱館戦争古戦場を初めとして標柱や説明板を幾つかたてて多くの人に知ってもらったが遅々としたものであった。そこで、町教育委員会へ史跡説明板の大幅増設を要請したところ実現し、数年間計画で40以上の説明板が全町に張り巡らされた。これは町の誇りでありその周辺を清掃しパトロールしている。

箱館戦争では招いたことではなく被害を被った。今では関係者が訪れることもない町内各地の戦没者の墓石へ出向き追悼を執り行っている。

文化財指定は第一次以来久しいが漸く第二次指定が間近に迫っている。それは道指定でもおかしくない北海道三角測量標石である。ただ指定で終わりでなく講演会の開催やイベントなど提言したいと考えている。また第三次の指定に向け準備していかなければならない。

函館、七飯、上磯とが提携して解決したい課題もある。箱館戦争マップづくりや幻の大函電鉄の掘り起こし、文月神社俳句額のルーツ解明等々である。

今年は野外で郷土複製写真展、また実行委員会を構成して桧沢の滝・古戦場ウォーキングを行い町民から喜ばれた。来年は親子ウォーキングをやってみたいと思っている。

大野の歴史にふさわしい新郷土資料館建設の促進をはかると共に各事業に対応できる組織体制、会員拡大などの検討も必要になっている。

トピックス

平成６年２月５日付の夕刊（道新）の記事をご覧になった方（２～３人）より事務局へ、第５回歴風文化賞（昭和62年）を受賞された建造物が焼失したとの通報や問い合わせがありました。調べた所、所有者も地番も同じですが、受賞の建物とは別棟のものが焼失したことが判明しましたので、お知らせします。

住宅と車２台全焼

【函館】五日午前三時五十五分ごろ、函館市赤川町三三二、会社社長近江新三郎さん（六一）方から出火、木造二階建て約二百平方㍍を全焼、屋外の駐車場にあった乗用車二台も焼けた。

函館中央署の調べによると、二階で寝ていた近江さん夫婦が、ガス警報機の音で目を覚まし、一階に下りると煙が充満していたという。同署で原因を調べている。

「はこだて史譚　―會田金吾郷土史論集―」
が刊行されました！　Ｂ５判 303頁 ￥2,000
（お申し込みは事務局へ）

インフォメーション

(1)　平成６年５月
21日～23日
第17回全国町並みゼミが、迷路と蔵のまち須坂市（長野県）で開催されます。

(2)　平成６年９月
23日～24日
全国ウォーターフロント会議
於：神戸市
（奮って御参加を！
～参加予定者は事務局へ～）

＝秋田市の史跡をたずねて＝

グループだより

◇チンチン電車　No.１０（H5.12.9）より
函館ハイカラ號は、明年５月１日から10月31日まで運行とのこと。

◇きーすとーん　第６号（'93.11.28）より
札幌：杉浦雅人 氏
国田祐作氏（北海学園大学教授）のレポート「都市の再生」他を掲載。
第３号（'931.11）に当会田尻聡子会員の「私のホワイトハウス」を掲載。

◇こみゅにけーしょん　第９号（'93.5.3）より
小樽再生フォーラム通信
「れきふう」の道を辿って（棟　徹夫）
「函館の町並み見学」（１行31名の来函を報道した記事）を掲載。町並みだけでなく「松前神楽」の保存への関心もうかがわれた。

◇おおの　No.24（'94.2.16）より
大野町文化財保護研究会
「北海道三角測量」の貴重な基点がある敷地が、今度所有者の中川虎雄氏から大野町へ寄贈となった。

事務局日記

☆函館圏行政連絡協議会より「まちづくりについての団体アンケート（照会）があった。

☆平成５年10月16日・17日“秋田市の史跡を訪ねて”の研修旅行実施。10名参加。現地の佐藤・佐々木渡辺先生の御参加をいただき御案内・御懇談頂きました。

☆11月17日　第32回市民文化交換のつどいが、ホテル函館ロイヤルで開催され、白鳳賞・青麒賞の授与と函館市文化賞受賞者の紹介が行われた。
（事務局長・浜田会員が出席）

☆11月20日“新たな市民参加システムを考える集い”が函館元町港ヶ丘教会で開催。関東で活躍している「アーバン・デザイン研究所」メンバー17名が来函され、色々な提言・助言をいただいた。
（事務局長、他出席）

☆12月４日「はこだて景観ウォッチング＆フォーラム」（主催：函館市）が五稜郭タワーで開催。
（浜島会長、他多数参加）

☆平成６年２月18日　第16回「函館の町並みを美しくする新春チャリティパーティー」に物品をご提供下さいました各商社の皆様に厚く御礼申し上げます。
渡辺靖夫実行委員長・斉藤サダ副実行委員長・実行委員の皆様ご苦労様でした。ありがとうございました。

☆第46号の写真は飯田 茂会員 他の御好意によりました。